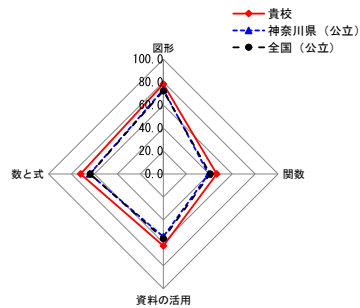


・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。
※ただし、4月18日に調査を実施していない学校については、4月19日以降5月7日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

集計結果

対象生徒数		横浜市立若葉台中学校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	
		81	62,366	938,887	
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	67	59	59.8
学習指導要領の領域	数と式	5	72.1	64.1	63.8
	図形	4	78.4	73.5	72.4
	関数	3	46.5	39.4	40.8
	資料の活用	4	62.7	54.7	56.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	8	59.4	51.7	51.0
	数学的な技能	3	69.5	62.4	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	5	76.0	70.2	71.3
問題形式	選択式	5	66.9	59.8	60.3
	短答式	7	73.0	66.1	66.6
	記述式	4	54.6	47.4	47.1

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域							評価の観点			問題形式			正答率 (%)			無解答率 (%)				
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式	短答式	記述式	貴校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	貴校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)		
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	1(1)ア															59.3	57.0	62.2	0.0	0.2	0.2
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ															74.1	70.3	70.1	7.4	4.7	5.1
3	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める	平行移動の意味を理解している	1(1)イ															90.1	84.0	83.6	1.2	0.8	0.7
4	反比例の表から式を求める	反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる			1(1)エ													53.1	44.9	48.9	8.6	12.8	10.4
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる			2(1)ア													81.5	72.2	72.8	4.9	3.6	3.3
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差を表すものを選ぶ	グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる			2(1)イ,エ													45.7	39.0	38.8	2.5	0.4	0.3
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2(1)イ,エ													40.7	34.2	34.7	11.1	12.8	11.6
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2)ア															75.3	77.4	75.8	8.6	5.0	5.2
7(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	反例の意味を理解している	2(2)イ															87.7	77.9	77.2	1.2	0.6	0.5
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(2)ウ															60.5	54.6	53.3	14.8	17.2	17.6
8(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる	1(1)ア															67.9	54.6	57.9	9.9	13.1	10.6
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1)イ													42.0	38.6	40.8	14.8	21.8	21.3
8(3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ	問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる			1(1)ア,イ													59.3	53.6	53.6	2.5	1.3	1.0
9(1)	説明をよみ、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	2(1)イ,ウ															69.1	59.4	57.4	7.4	10.0	9.5
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1)イ,ウ															75.3	62.2	59.7	12.3	16.0	17.8
9(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n + 4)$ で表されたとき、 $2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる	2(1)イ,ウ															82.7	71.8	69.6	3.7	2.1	1.9

※過年度からの継続的な分析に資するため、参考として設けた。